

5千年ぶりに蘇る

アーユルヴェーダ

⑤

バイオリンク
辻大作社長

すべては「毒素排泄」

ヘルス志向とともに注目

発展していったのです。今後はますます「ヘルス&ビューティ」志向が強まって来ればくるほど、「アーユルヴェーダ化粧品」やあるいは「サプリメント」が注目を集めるようになってくるで

「アーユルヴェーダ」は最初は言い伝えてきたが、後世になって、文献として残されるようになってきました。

「アーユルヴェーダ」から端を発した「中国医学」や「ユナニ医学」は、すべての基本になっているのは「毒素排泄」です。だから考え方はまったく同じなのです。

「アーユルヴェーダ」

輩であるインド人です。日本人がビジネスの大先輩のインド人が相手ではかなり難しいものがあります。例えば「〇〇というものを送ってくれ」「〇〇というものを生産してくれ」と注文しても、そ

85種類もあるのです。その中で実際に脂肪を抑える効果のあるものは1種類しかないのです。だからそれをきちんと具体的に指名しなければいけないし、またそれを製品化できる技術を持つ企業もゼロに近いのです。

のかどうか、そして日本人向けに製品化できるかどうかかポイントになってきます。いくら成分が0・0001%は入っているとしても、効果があるのかどうかは分かりません。それをクリアして「アーユルヴェーダ化粧品」が登場するかもしれません。そのためにも、「本物」の原料を入手することが出来るかどうかが大前提になって来ます。

これが出来る企業は、真の意味でこれから発展を約束された企業だといえるでしょうね。

の場合、体には三つの要素があるといわれています。しかし、「中国医学」は陰陽五行となり、「ユナニ医学」では四つになります。基本的な考え方は同じでも、それぞれが

「ここで注意しなければならぬこと」は「いかに本物を仕入れることが出来るか」ということになります。

の通りに作ってくれるか、送ってくれるかは分かりません。仮りに「ググル」というものを取ってみても「ググル」と呼ばれているものは、インドには一

「ここで問題になるとは、抽出技術があるかないか、製品として使える

相手はビジネスの大先